

大分県道州制研究会及びこれまでの意見交換会での議論（主なもの）

肯定的意見（メリット）

【大分県道州制研究会報告書】

- 広域経済圏による発展
- 広域地域での行政課題への対応
- 活力ある地域の実現
- 行政の効率化
- 人材の育成・確保
- 地方のことは地方で決定する社会の実現

【意見交換会】

- 九州という広域行政によって県単独ではできないことができるようになる。
- 地域のニーズにあった施策が取れるのであればよい。
- 制度などで県の壁が取り払われると、経済面では非常に自由になる。
- 行政のスピード感が増すのではないか。
- 九州は独立国になる位に力はある。ブランド力もある。
- 国の財政が厳しい中、導入せざるを得ない。
- 国のルールだとできないことを地方ならできるようにするのであれば一案。

否定的意見（デメリット）

【大分県道州制研究会報告書】

- 地域アイデンティティ、個性、文化の消失
- 地域間格差の拡大、地域の衰退
- 住民サービスの低下
- 公共機関等の集約化、企業等の競争激化
- 人材の確保等に関する問題
- 単なる都道府県合併で終わるおそれ
- 九州府・道州政府の規模

【意見交換会】

- 地域のアイデンティティが消失しないか。
- 九州でロットを揃えていくと、量は揃うが、品質を統一するのは難しい。県内1位でも、九州の中で集まると下の方のブランドになってしまう。
- 行政区域が広範囲となり、市民サービスが低下するのではないか。
行政への住民参画の機会が薄くなっていくのではないか。
- 州都が福岡に行ってしまうと周辺部となる大分県は厳しいのではないか。
- 道州制の発想は経済中心主義ではないか。
- 県域で活動する企業への影響

道州制議論の以前に取り組むべきこと・道州制導入の前提条件

【大分県道州制研究会報告書】

- 地方分権改革の着実な実行
- 規制緩和
- 大分地域の特色の活用、磨き上げ（豊かな地域づくり）
- 九州が一体となったアジアとの交流
- 社会インフラの整備
- 国からの権限、財源、人的資源の移譲
- 市町村及びその他の団体のあり方検討
- 適切な州都配置

【意見交換会】

- 地方地方にあった対策、取り決めは絶対的に必要。
- 道州制の受け皿となる基礎自治体をどう構築していくか議論が必要。
- 道州制の情報が市民に伝わっていないのではないか。
- 地方分権、平成の大合併によって、何がよくなって何が悪かったのか検証する必要がある。
- 県としての範囲も残しつつ、徐々に道州制に移行するのがよいのではないか。
- 道州制の前に、交通インフラの整備や企業誘致、九州内の交流を深めていくのがよい。
- デメリットが生じた時にどう対処していくか、準備をしておくことが必要。
- 州都を大分に。